

福岡ランニングセンター(FRC)ニュース NO.52

発行日 2020年4月11日

発行責任者 西村文男

事務局 新日本スポーツ・福岡県連盟北九州事務所 〒806-0013 北九州市八幡西区清納1丁目1-10

TEL・FAX 093-662-9278

E-mail krc-fn@jcom.home.ne.jp

首相が緊急事態宣言を発令(来月6日まで)

安倍首相は「休業補償は現実的ではない。」と逃げました。これではコロナ難民を作り出すことになり。いま、政府や自治体やマスコミ等の自粛大合唱で、おかしいと言えない雰囲気です。

WHOのテドロス事務局長の上級顧問を務める渋谷健司氏は、感染対策について「人口の7割が感染するか、ワクチンが見つかるまで収束しない。」と言っています。

従って、自粛は感染対策ではありません。自粛をすれば誰が感染しているか分からなくなり、対策が困難になり、収束できなくなります。むしろ、検査体制を強化して、感染者を見つけて隔離することが必要です。ところが、政府は検査を絞っています。WHOの渋谷氏は「加盟国に対して必要なのは『検査と感染者の隔離』だと主張してきました。それが感染症対策の基本原則です。検査をするべきかしないべきかで議論しているのは日本だけ。海外では議論にすらなりません。検査と隔離。それをやるかやらないかが、明暗を分けます。」と言っています。

自粛するというのは、これまで政府や自治体が、公務員や医療関係従事者を削減してきた為です。北九州市にはかつて各区に保健所がありレントゲン技師や検査技師がいましたが、今は各区の保健所はなくなり一箇所になっています。感染者が押し掛けたらパニックになるのです。

イタリアで医療崩壊が起きていますが、日本の救急医療体制はイタリアよりさらに悪く、イタリアの半分以下です。感染爆発する前に日本は医療崩壊が起きるといわれています。

中国が病院を建てたり、仮施設を建てたりして素早く対応して、収束しています。渋谷氏は見事な対応をしたと高い評価をしています。日本は今頃、軽い感染者をホテルに移動すると言っていますが、感染爆発した時の体制が全く出来ていません。これでは日本のコロナ対策は人災とも言えるでしょう。日本は自粛ばかり国民に強制して、検査もあまりせず、まるで竹槍戦法のようなと渋谷氏は語っています。山中教授は「フランスの友人に電話したら、閉店した所には300万円の現金が支給されている。」と聞いたと話しています。本当に自粛を言うなら補償をするべきです。

ところが、緊急事態宣言を発令すると補償の必要もなくなるし、家主の同意も無く建物を使えるのです。これでは、することが全くアベコベです。

阪神淡路大震災や東日本大震災の時、政府は行事の自粛を行いました。しかし、被災者住宅のある公園では子ども達がボールを蹴ったりして遊びました。そして、サッカークラブを立ち上げたのです。健康で文化的な生活をするためには、スポーツは必要です。身体を動かすことは生活の一部であり、欠かせないものです。従って、渋谷氏が住むイギリスでは「ロックダウンしていますがジョギングなどの運動はできますし、買い物に出かけることもできます。ロックダウンは怖いものではありません。」と話しています。

以上のことから、福岡ランニングセンターでは月例マラソンの対応を下記のようにしました。

4月19日の第34回みずまき月例マラソンは中止します。

河川敷を走りたい人にはコロナ対策でサポート

中止を知らずに会場に来られる会員がいます。そのために、我々役員が案内に立っています。

せっかく来られて、練習して帰りたい方のために、又、日ごろの練習不足を解消したい方や、日頃の練習成果を試したい方に我々役員がサポートします。

従って、テントも張りませんし、参加費等も取りません。給水所も設けませんし各自が自由に走ってもらいます。ただし、緊急事態宣言が発令されている時なので、人と会話する時はマスクを着用して1m以上離れてください。走るときはマスクを外してかまいませんが、離れて走ります。

走られる方には非接触型体温計で体温を測り、消毒液も置いて感染対策を取ります。

福岡ランニングセンター第5回総会開催

第34回みずまき月例マラソン中止の後に、福岡ランニングセンター第5回総会を開催します。会員の皆さんの参加をお願いします。

記

1. 日時：4月19日（日）14:00～16:00
2. 場所：新日本スポーツ連盟北九州事務所（通称「自然の館」）TEL093-662-9278
〒806-0013 北九州市八幡西区清納 1-1-10
3. 議題：2019年度経過報告・会計報告・監査報告
2020年度活動方針・予算案・役員選出

【投稿】

桜ウォークに参加して

神田 孝

新型コロナウイルスの感染が広まる中、3月29日、玄界トリアスロンクラブが主催する「桜ウォーク」に参加した。

50名以上の参加者が集まれば中止の判断（主催者談）も考えたそうですが、当日は20名程が集合。スタート地点の白木橋駐車場を午前8時出発。

事前にもらった案内図のとおり、いきなり急な登りが続き、息が弾む。標高300mを超えた頂上に到着。ここは九州自然遊歩道のコースになっているようだ。交差する橋をくぐり抜けて下りに入る。登りでかいた汗に風が心地よい。帽子を思わず外した。ホッと一息しながら河内貯水池（1周6^{キロ}）をめざす。奥田川駐車場でトイレタイム。目の前に貯水池が広がってきた。



河内貯水池

ここからは平たん。足取りも軽く、朱色のメガネ橋を渡り、周回コースへ。ジョギングする人も目立つ。釣り禁止の看板を見て、池の所有者が新日鉄と知る。中間点の石置堤防に着いた。高さ44.1m。大正8年に着工されている。ここまでの所要時間は1時間45分。満開の桜を横目に池を歩き終えた。これから復路に。

スタート地点に戻って、今度は畑貯水池（1周5.2^{キロ}）を周回。ここは北九州市が所有者。ここにもジョギング、ウォーキングを楽しむ人達が。

空腹を覚えた頃、スタッフが待ち構える白木橋駐車場にゴール。時計は12時20分。全行程21^{キロ}、所要時間4時間20分。桜満開の公園で昼食。用意された弁当と豚汁が一段と美味かった。

要所にスタッフ配置と矢印設置など道案内する主催者の気配りに感謝。天候にも恵まれ、トレーニングにもなった一日だった。

一緒に歩いた築城さと子（ウォーキング協議会）さんの健脚も見事でした。

《役員だより》

◆新型コロナウイルスの影響はとどまることを知らない。博物館、美術館、図書館は休館し、屋内の諸行事はすべて延期か中止、月例マラソンも2ヵ月続けて中止を余儀なくされました。個人でできる新型コロナウイルス対策は、抵抗力の維持向上です。バランスのとれた食事と質の良い睡眠、ストレスを溜めないためにも適度な運動が必要です。以前にもまして、低山歩きとウォーキングに励んでいます。桜の季節は過ぎ去りましたが、これからツツジや藤の花が見頃を迎えます。三つの「密」に留意しつつ1年で最も快適なこの季節を楽しみたいと思っています。（淵上）

◆コロナ対策は検査をして感染者を隔離し治療する。これが原則です。検査件数が少ないのは世界と比べても異常です。政府はすぐ検査できるように金と人を配置すべきです。そして感染者が治療を受けられるように体制を取るべきです。それをしないで、国民に自粛を強制することはアベコベです。自粛は社会不安と混乱をもたらします。国民に自粛を求めるなら補償をすべきです。エクササイズ教室のインストラクターはとうとう教室が全く開けなくなりました。コロナ対策どころかインストラクターにとっては死活問題です。（西村）



出発式